そすいの郷

第３３０号
２０２２年（令和４年）
１月２０日 編集・発行
西地区コミュニティ運営委員会
広報編集部会

（2022年烏ケ森からの「初日の出」は拝めませんでしたが、昼前には「雪遊び」をする家族の姿が多く見られました。）

まほろば太鼓「打ち初め式」に出演（子ども疏水太鼓）

１月８日（土）子ども疏水太鼓が那珂川町ふるさと館で開催された「那須小川まほろば太鼓打ち初め式」に出演、演奏を披露しました。那須小川まほろば太鼓は平成8年12月発足。町の郷土芸能として永く続いていくよう、疏水太鼓同様、子どもたちと一緒に頑張っています。

子ども疏水太鼓の打ち初め式への出演は平成27年から。この日のため、前日には特別練習を行い本番に臨んだのは、5,6年生14名。子どもたちは練習の成果を存分に発揮、中止となった昨年の分の思いも込め、３曲を力強く演奏しました。

西小１年生に「むかしのあそび」を伝授（高齢者部会）

１２月２１日（火）高齢者部会を中心としたボランティアの方々15名が西小学校に出向き、「むかしのあそび」を伝授しました。実施した遊びは、竹馬、羽根つき、竹とんぼ、あやとり、お手玉の５つです。

７～８人ずつのグループになり、15分程度でローテーションして全部の遊びを体験しました。

最初は戸惑っていた子どもたちも、遊びのコツを教えて貰うと、楽しそうに「むかしのあそび」に挑戦していました。

体験をしたのは１年生39名。従来の1、2学年の社会科・理科を統合した生活科の授業の一環ですが、身近な社会や自然とのかかわりから生活を考え、生活に必要な習慣・技能を身につけるための教科が生活科で、様々な取り組みがあるようです。

地域の話題・トピックス

西地区の行事や出来事、身近な話題などの情報がありましたら、広報編集部会員または西公民館（☎37-1677）までお寄せ下さい。また、西地区で活動していること、趣味のこと、自慢話や思い出話、地域の昔のことなど、「そすいの郷」への投稿も募集しています。（できれば写真も一緒にお願いします。）

投稿

田んぼの学校で、巣箱と凧を作りました。

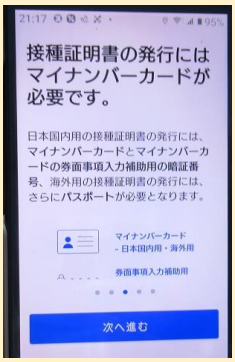
四区町　山﨑智雄

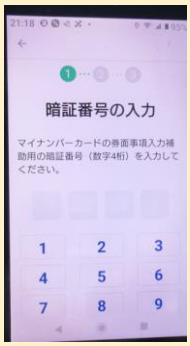
美土里ネット那須野ケ原と連携する「刈込みどじょっこ会」（辻野岩男会長）田んぼの学校では、親子、西小学校の先生、協力員、指導員など55名が参加して12月12日（日）に、四区町公民館の駐車場で「シジュウカラ用の巣箱」と「買い物袋とストローで凧」を作りました。
「できた巣箱は家に持ち帰って、木にひもでしばり、鳥さんが選んでくれるのを待っていてください。選ばれれば、来年の4月～5月に赤ちゃん鳥が巣立ちます」とのあいさつに続き、巣箱作りに挑戦しました。

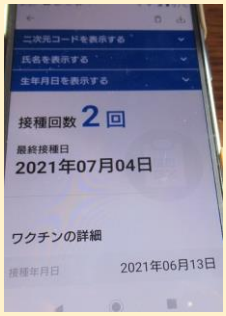
環境保全会の役員が作った巣箱は公民館近くの植木畑にみんなで架けて、鳥に選ばれるのを待つことに。来年の4月に水稲の種まき、5月には田植えを予定しているので、その時に巣箱を確認することにしました。
巣箱を架けた後、買い物袋とストローで凧を作って、子供たちは、はしゃぎながら駆け回っていました。

新型コロナワクチン接種証明書アプリをインストールしてみました。

スマホに専用アプリをダウンロードして操作すれば、自動でワクチン接種の証明書が画面表示されるシステムの運用が開始されました。既に実践している方もいるかと思いますが、実際にインストールしてみましたので、紹介します。（Google playなどから新型コロナワクチン接種証明書アプリをダウンロードし、指示に従い進めて行きますが、マイナンバーカードがないと出来ません。）







スマホに表示されたアイコンです。タップすると接種証明書が表示されます。

飲食店やイベント会場などに入る際、画面を提示したり、専用機器でQRコードを読み取って貰ったりすることが想定されます。（接種証明書の「二次元コードを表示する」をタップするとQRコードが表示されます。）
「電子接種証明」を使わないで済む状況が早く訪れて欲しいものです。

烏ケ森の野鳥たち⑩　ツグミ（鶫）

全長24cm。冬鳥として晩秋にシベリアから渡ってくる冬鳥の代表。日本へ着くと群れを解いて、田畑や低い山の林に散らばって生息、春には再び群れて北へ帰ります。胸を張って木の枝にとまり、地面におりて枯葉の下の虫をさがします。
冬鳥なので日本ではさえずりません。そこで冬には口をつぐんでいる、それでツグミと呼ばれるようになったともいわれています。かつては、食用にする習慣もありました。